

# 授受表現における日本語とスペイン語の対応

長谷川 哲 子

Japanese benefactive verbs and its corresponding in Spanish.

HASEGAWA Noriko

## Abstract

The purpose of the present study is to investigate how Japanese benefactive verbs correspond to Spanish expressions. Japanese benefactive verbs (AGERU, KURERU, and MORAU) comprise a trinomial system. As we have seen, this trinomial contrast is linguistically rare, while the binomial benefactive system is common in numerous languages, including Spanish. As a result of this comparison of Japanese and Spanish benefactive expressions, this article reports that: 1) in the cases of AGERU and KURERU, the giver tends to be marked with the nominative in Spanish. The syntactic structure employed in Spanish parallels that of Japanese. 2) in the case of MORAU, the giver tends to be marked not with the nominative, but with the dative. This tendency shows disagreement on the point of how to mark the giver and receiver in benefactive sentence patterns. These results suggest possibilities for reviewing and revising in detail the grammatical description of benefactive expressions, especially in textbooks for Spanish-speaking learners of Japanese.

## 1. はじめに

本稿は、授受表現における日本語の表現とスペイン語の表現の対応について考察するものである。

日本語における授受表現としては、授与動詞アゲル、クレルと収受動詞モラウの3つが挙げられる。これらは授与者（与え手）や受益者（受け手）の人称制限にもとづいて3項

対立をなす。よく知られているように、授受表現において2項対立の形式を持つ言語は数多く見られるが、日本語のように、授受表現を担う動詞がこのような3項対立をなす言語はまれである<sup>1)</sup>。

このように日本語の授受表現は、その対立のしかたにおいて他の言語に比べて特徴的であるが、授受の概念や授受表現そのものは様々な言語に存在するものである。ならば、日本語の授受表現形式と他の言語の授受表現形式には、どのような対応が見られるのであろうか。

また、日本語教育において、授受表現は初級段階で扱われる基本的な文法項目である。授受動詞の補助動詞としての用法も含め、初級でカバーすべき基本的な用法であるが、それと同時に学習者にとって誤用の頻発する学習困難点であると言われている。この点においても、授受表現に関して、学習者の母語など日本語以外の言語においてどのような表現が対応するのかを明らかにしていく必要がある。

本稿では授受表現において3項対立をなす日本語と2項対立をなすスペイン語の対照を行う。その考察にあたり、スペイン語から見た日本語との対応、ならびに、日本語から見たスペイン語との対応の両面から、それぞれの言語間における表現の対応を見ていくこととする。

## 2. 先行研究

以下では、日本語の授受表現とそれに関する対照研究を概観する。

まず、授受表現について、日本語と英語の比較対照を行った研究として、大江(1975)が挙げられる。大江(ibid.: 29)では、「ヤル、クレル、モラウに対応する英語としては、give, receiveが考えられる」とし、その詳細について、「視線の軸」という観点を設定した考察を行っている。

日本語の授受表現については、一般に恩恵を含んだ行為を表すとされているが、言語によってどのように恩恵を表すかについて、益岡(2001)では「好ましさの言語化」として、「当該の事態が好ましいかどうかはコンテクストに依存した語用論的な問題」としている。

このことから、言語が異なれば、恩恵や事態の好ましさの表現の有無、またその表現形式も異なることは想像に難くない。

---

1) 山田(2004: 334)参照。

授受表現について、日本語と他の言語の対照研究を行っている最近の研究としては、山田(2004)が挙げられる。山田(2004)は、補助動詞テヤル・テクレル・テモラウ、およびその待遇的バリエーションを「ベネファクティブ(benefactive)」と総称し、日本語と他の言語にわたって類型論的研究を行ったものである。その中で、日本語の授受表現がアゲル／クレル／モラウのように3項対立を成すことが汎言語的に見て希少であること、さらに様々な言語における事態の恩恵的捉え方を表す表現形式の異なりようが示されている。

また、水谷(2001)は、日本語と英語の授受表現の対照を行っている。

ここでは、授受表現に関して、日本語と英語相互への訳出程度が例証されており、その結果、日本語の授受補助動詞は英語に訳出されない場合が多いこと、英語から日本語への訳出では英語にはない授受表現の付与が見られることを明らかにしている。

最後に、スペインとの対照研究である上田(2000)を紹介しておく。この研究は、日本語の授与補助動詞アゲル・クレルと、スペイン語の与格接語<sup>2)</sup>との対応を検証するものである。ここでは、スペイン語の与格接語の意味として、「対象：行為、授与、伝達の相手」「利害：利害に関わる人」「所有：特に身体部位名詞に対して」が挙げられているが、これら全てを担う与格の本質は「関与性」であるとされている。

上田(ibid.)では授与補助動詞が主な考察対象であるが、～テアゲル、～テクレルにおける対応に加えて、収受補助動詞～テモラウを含めた授受表現全体と、スペイン語での表現との対応はどのようになっているのだろうか。

さらに、水谷(2001)で指摘されたように、日本語の授受表現が対象言語において訳出されなかったり、対象言語から日本語への訳出において授受表現が付与されたりする現象は、英語と同じく授受表現の2項対立を持つスペイン語においても、同様に観察されるだろうか。

本稿では、これらの先行研究を踏まえて、上記の点を中心に考察していきたい。

### 3. スペイン語から見た日本語の授受表現との対応

以下で考察対象として挙げる用例は、『日本語とスペイン語の二言語コーパス』<sup>3)</sup>によるものである。このコーパスにおいて日本語の授受表現と対応していたスペイン語の用例数<sup>4)</sup>を本動詞の用例と補助動詞の用例に分けて、次の表1に示す。

---

2) 本稿では上田(2000)にならって「与格接語」もしくは「与格」を用いる。

3) <http://gamp.c.u-tokyo.ac.jp/~ueda/kenkyu/index.php> よりダウンロード。

研究社『新スペイン語辞典』の用例のうち用例句を除くすべての完全文。全体で24218例。

4) 恩恵を表さない用法(非恩恵の用法)の用例は含まない。

表1 日本語の授受表現と対応していたスペイン語の用例数

	アゲル	サシアゲル	クレル	クダサル	モラウ	イタダク	計
本動詞	13	0	23	22	41	12	111
補助動詞	41	2	413	316	125	98	995
計	54	2	436	338	166	110	1106

アゲル・サシアゲル（以下、アゲル系）、クレル・クダサル（以下、クレル系）、モラウ・イタダク（以下、クレル系）の用例数について、特に補助動詞の用例において、用例数のばらつきが見られる。用例数が目立って多かったのがクレル系の補助動詞の用例であるが、これは

¿Puedes prestarme tus apuntes? -- Muy bien. ノート貸してくれる?—いいよ。(bi19909)<sup>5)</sup>

のように、依頼表現として用いられている例が多数であったためである。

すでに、上田(2000)に示されているように、日本語の～テアゲル、～テクレルとスペイン語の表現との対応においては、授受の受益者が与格接語で表示される点が特筆される。

以下での用例観察にあたり、スペイン語の用例と日本語の授受表現との対応が見られる場合には、スペイン語において授与者や受益者がどのような形式で表示されているか、具体的には、主格、与格、もしくはそれ以外の形式によるのか、という観点から用例を分類していく。

分類を示す前に、スペイン語の主格、与格、対格の体系を下の表2で確認しておく。なお、スペイン語においては、主格の代名詞の表示は必須ではない。

表2 スペイン語の主格、与格、対格

	主格代名詞		与格接語		対格接語	
	単数	複数	単数	複数	単数	複数
1人称	yo	nosotros nosotras	me	nos	me	nos
2人称	tú	vosotros vosotras	te	os	te	os
3人称	彼 él 彼女 ella あなた usted	彼ら ellos 彼女ら ellas あなたがた ustedes	le(se) <sup>6)</sup>	les(se) <sup>6)</sup>	彼 lo(le) 彼女 la あなた lo/le,la そのこと lo	彼ら los 彼女ら las あなたがた los, las

5) このコーパスでの用例出典は、全て「(bi+ 5桁の番号)」によって示す。なお、この5桁の番号は、コーパス内であらかじめ付与されているものである。

6) 3人称の対格接語と共に用いられる場合。

授与者と受益者の表示形式による分類基準は、次のとおりとする。

パターンA：授与者が主格で表されている (日本語のアゲル・クレルと並行的)

パターンB：受益者が主格で表されている (日本語のモラウと並行的)

パターンAの典型的な動詞は授与動詞darであり、以下のような構文をとる。

Te doy este libro. 私は君にこの本をあげよう。

この例では、授与者は1人称単数の主格であるが、スペイン語では主語の表示が必須でない場合があるため、形式上は明示されていない。また、受益者は、2人称単数の与格teで表示されている。

一方、パターンBの典型的な動詞は収受動詞 recibir であり、以下のような構文をとる。

Recibí los regalos a mi cumpleaños. 私は誕生日にプレゼントをもらった。

この例では、授与者は表示されていないが、受益者が1人称単数の主格で表されている。

このような分類に従えば、授与者と受益者の格関係が並行的であることをもって、下表のようにスペイン語と日本語では授受の表しかたが並行的であるとの推測が可能である。

日本語	スペイン語
[授与者] ガ [受益者] ニ アゲル, ~テアゲル	パターンA: 授与者-主格
[授与者] ガ [受益者] ニ クレル, ~テクレル	
[受益者] ガ [授与者] ニ モラウ, ~テモラウ	パターンB: 受益者-主格

しかし、実際には一概にそのような結論を導くことはできず、むしろ両言語における表現の間には、いわば非対称的な対応が見られるのである。

以下では、アゲル系、クレル系、モラウ系とパターンA、パターンBの対応を見ながら、その対応の非対称性を指摘していくことにする。

### 3-1 アゲル系との対応

#### 3-1-1 アゲルとの対応

まず、最初に本動詞アゲルと、パターンAとの対応を挙げる。

(1) Te doy una semana de plazo.<sup>7)</sup>

君に一週間の期限をあげよう. (bi22705)

(2) Te ofrezco mi corazón a cambio de mi pobreza.

貧しいけれど僕の気持ちを君にあげよう. (bi22765)

7) 用例中の傍線には、次のような下線表示を付した。

主格    与格    対格    授受動詞相当の表現 (主に動詞)

この対応パターンでは、動詞の必須項として、授与者が主格、受益者が与格で表される点において、スペイン語と日本語が全く並行的に対応する。

また、主格が受益者を表すような用例も見られる。

(3) Si te gusta la foto, quédatela.

写真が気に入ったら君にあげるよ. (bi21890)

(4) Toma mi pañuelo y límpiate esas lágrimas.

ほら、私のハンカチをあげるから涙をお拭き. (bi23271)

これらは、受益者が主格となっているが、再帰動詞((3)の *quedarse*)や獲得することを意味する動詞((4)の *tomar*)を用いた表現であり、収受動詞のように方向性を伴わない。そのため、パターンBの対応とはみなさない。

### 3-1-2 ~テアゲルとの対応

次に、補助動詞としてアゲルが用いられた場合の用例を挙げる。

~テアゲルのように補助動詞としての用法においても、上記のアゲルの対応と同様に、パターンA、つまり、授与者が主格によって表される場合が最も多い。

(5) Tengo una raqueta de más; así que podré prestártela.

私は余分のラケットを持っているから君に貸してあげられるよ. (bi22992)

(6) Te dejo el libro a condición de que lo leas.

君が読むというのなら本を貸してあげよう. (bi22697)

これらの用例では、受益者は与格によって表示されており、受益者である与格が授受されるものの着点となっている点においても、日本語の~テアゲル構文との並行性が観察される。

また、次のように、受益者が対格で表示される場合もある。

(7) Perdónale. Lo hizo sin querer.

彼を許してあげなさい. わざとしたのではないから. (bi19363)

(8) Voy hacia el aeropuerto. Puedo llevarte en mi coche, si vas a tu oficina.

私は空港の方へ行くけれど君が会社に行くなら車に乗せて行ってあげるよ.

(bi24098)

(9) Me pica la espalda. -- ¿Quieres que te rasque?

背中がかゆい—かいてあげようか? (bi16715)

このように、受益者が対格となっている場合、動詞の語彙的意味に物の授受や所有関係が認められず、対格は動詞の行為対象となっている。そのため、受益者が与格の場合と異なり、物の所有関係の移動は認められず、いわば、行為のやりとりを表現している。

日本語の授受表現との対応において、スペイン語の与格に関して特徴的なのは、いわゆる「利益の与格」である。これは、動詞項として必須ではない与格を用いて、動詞行為の受益者を表すものであり、上田(2000:169)では「関与性の付与」といわれるものである。

(10) Te prepararé algo de beber.

君に何か飲物を作ってあげよう. (bi22773)

(11) Este papel me viene de molde para escribirte mi dirección.

この紙は君に私の住所を書いてあげるのにちょうどよい. (bi10178)

このような構文の特徴は、動詞の語彙的意味に物の移動や作成を含むことであり、与格が受益者かつ所有関係の着点となることから、利益の与格をめぐって所有関係の移動が見られる。さらに、この利益の与格は、物の授受や所有関係の移動を伴わない場合にも用いることができる。

(12) Esa falda te queda preciosa, Carmen. Vuélvete para que te la vea por detrás.

そのスカートはとてもよく似合うわ、カルメン。後ろを見てあげるからぐるっと回って. (bi9031)

(13) Yo te sujeto la escalera. Baja sin temor.

私がはしごを押さえてあげる。怖がらずに降りてきて. (bi24292)

これらの用例では、物のやりとりや所有関係が認められないことから、与格は着点とはみなせないが、行為への関与性を表すための与格が表示されている。

一方で、受益者が与格や主格のような明示的表示では表現されないものの、～テアゲル構文との対応が見られる場合もある。

(14) Intercederé con tu padre para que te perdone.

お父さんにお前を許してもらうよう頼んであげよう. (bi11798)

(15) Sal tú a abrir la puerta, porque no estoy de recibo.

ドアを開けてあげて、私はまだ用意ができてないから. (bi21059)

これらの用例では、受益者の表示が非明示的であり、形式的には授受表現との対応が見出せないため、水谷(2001)が英語との対照において指摘したように、日本語への訳出において授受表現が付加された例であるとみなせる。

なお、今回の用例観察においてはパターンBに該当するような用例は見つけることができなかった。

### 3-2 クレル系との対応

以下では、クレルについて、本動詞クレル、補助動詞～テクレル、クダサルに分けて用

例を挙げていく。

### 3-2-1 クレルとの対応

日本語のクレルの特徴は、受益者が1人称、もしくはそれに準ずるものに限られる点である。このような特徴をもったクレルとスペイン語は、どのような対応を見せるのであろうか。

クレルは、アゲルと同じく授与動詞であり、下に示すように、授与者が主格で表されるパターンAと対応する例が多い。

(16) Dame el libro de encima.

一番上にある本をくれ. (bi3374)

(17) Al acabar el partido de tenis, Rosa me ofreció una toalla para que me enjugara el sudor.

テニスの試合が終わるとロサは私に汗をふくタオルをくれた. (bi836)

授与者が主格で表された場合、次の(18)のように授与者が無人称で表示されることがある。

(18) Al depositar dinero en el banco, me dieron un resguardo.

銀行に金を預けると受領書をくれた. (bi894)

上の例文(コンマ以下)に逐語訳を与えると、「[(3人称複数:無人称)が]私に受領書を与えた」となる。この場合、スペイン語ではアゲルと同様の構文であっても、受益者が1人称であるような授受関係は、日本語ではクレルが担うべきものである。ここに、授受表現に関して、2項対立のスペイン語と3項対立の日本語のずれが観察できる。

### 3-2-2 ~テクレルとの対応

~テクレルの場合においても、上記のクレルと同様に、授与補助動詞の~テアゲルの場合と同じく、授与者が主格で表される例が多い。

(19) ¿Me prestas el paraguas?

私に傘を貸してくれる? (bi16736)

(20) Alárgate al kiosko y tráeme el periódico.

ついでにキオスコまで行って新聞を買って来ておくれ. (bi193)

これらは、物のやりとりを表す動詞であり、与格を着点とする所有関係が認められる。日本語とスペイン語の対応としては、授与者を主格で、受益者を1人称の与格で表示することからクレルと並行的なパターン、つまりパターンAとの対応である。

また、物のやりとりではなく、いわば行為のやりとりとみなせる場合もある。

(21) Mi hermano me enseñó a montar en bicicleta.



兄が私に自転車の乗り方を教えてくれた。 (bi17087)

上の用例では、受益者が与格で表示され、その与格は行為の対象である。その行為が日本語への訳出において恩恵をめぐる行為とみなされ、～テクレル構文とのなじみが見られる。

さらに、受益者が対格で表示される場合もある。

(22) Mi marido me ayuda a cocinar algunas veces.

私の夫はときどき料理の手伝いをしてくれる。 (bi17184)

(23) Quando era niño mi tía Sofía me llevaba al circo.

私が子供のころソフィアおばさんは私をサーカスに連れて行ってくれた。 (bi3119)

この場合も、上記の与格と同様に、物の授受や所有関係が認められない動詞であっても、対格は受益者であるとみなされる。それは、対格が動詞の意味内容の行為対象となり、かつ、動詞の行為内容が、日本語では益岡(2001)のいう「好ましきの言語化」に相当する行為であると判断されるからである。

最後に、～テクレル構文とスペイン語の利益の与格との対応も観察できる。

(24) Cada noche mi madre me leía un cuento de hadas.

毎晩母は私におとぎ話を読んでくれた。 (bi2167)

(25) ¿Me puedes echar esta carta al correo?

この手紙を投函してくれる? (bi16756)

(26) Tengo una mota en el ojo derecho. ¿Me la puedes ver?

僕の右目にごみが入った。見てくれる? (bi22990)

上記(25)では、与格は1人称単数 me で表示されているが、これは「手紙を投函する」ことの着点ではなく、「手紙を投函する」ことによる受益者を示している。また、(26)では、動詞 ver に対して、動詞の必須項である対格 la が表示されているが、これは「(目に入った)ごみ」を指しており、その直前にある与格 me は「ごみを見る」ことの着点ではなく、そのことによる受益者である。

このように、物の授受や所有関係が認められず、受益者である与格が直接目的語の着点とならない場合も、日本語の～テクレル構文による訳出の範疇に含まれることが分かる。

一方、受益者が与格で表示されない場合について、～テアゲルでは、パターンBとの対応が見られなかったが、～テクレルにおいても、受益者が主格で表示される例は、ごくまれである<sup>8)</sup>。

---

8) 今回のコーパスでは、下記の例がその該当例である。

Enrique me pidió así como así cinco millones de pesetas. ↗

また、受益者が与格や対格によって表示されない場合も見られる。

(27) El hombre generoso perdona fácilmente.

寛大な人はすぐに許してくれる。 (bi5818)

(28) El tiempo borrará los malos recuerdos.

時がいやな思い出を消してくれるだろう。 (bi7295)

(29) Esta lluvia sentará el polvo.

この雨はほこりを落ち着かせてくれるだろう。 (bi9534)

(30) Las flores alegran la vista.

花は目を楽しませてくれる。 (bi14169)

このような場合には、受益者は明示されていないが、話し手を含む一般的な受益者が想定されているものと考えられる。

### 3-2-3 クダサルとの対応

先述のとおり、今回のコーパスの用例中では、クダサルの用例数が他に比べて多い。それは、クダサルが「～ヲクダサイ」の形式をもって、要求の表現として文法化しているためであると考えられる。そのため、下のように、命令や願望を表す文との対応例が非常に多く見られる。

(31) Dame un poco más de vino.

もう少しワインをください。 (bi3382)

(32) Contéstenos a su mayor conveniencia.

ご都合のよろしいときにお返事をください。 (bi2898)

この点は、補助動詞～テクダサルについても同様である。つまり、～テクダサルが「～テクダサイ」の形式で、依頼、指示、勧め、許可要求（～[サ]セテクダサイ）の表現として文法化しているため、多様な機能を担っているのである。以下にそれぞれの用例を挙げておく。

(33) Abre la ventana para que entre el aire.

風が入るように窓を開けてください。 (bi560) <依頼>

(34) Ahora, cierren ustedes sus libros.

さて、本を閉じてください。 (bi818) <指示>

---

↘ エンリケは私に何気なく500万ペセタを貸してくれと言った。 (bi8424)

ただし、これは動詞pedirによって、逐語的には「500万ペセタを頼んだ」との意を表すものである。

(35) Póngase usted el saco y mírese en el espejo.

上着を着て鏡をご覧になってください. (bi19538) <勧め>

(36) Antes de marcharme, quiero sacar una foto de todos reunidos.

帰る前に皆が集まった写真を撮らせてください. (bi1568) <許可要求>

### 3-3 モラウ系との対応

スペイン語と日本語の授受表現の対応において、表現形式における対応の非対称性が最も顕著になるのは、モラウ系である。その詳細については、長谷川(2005)で扱っているが、ここでは、アゲル系やクレル系との異同を挙げながら用例を挙げていくことにする。

#### 3-3-1 モラウとの対応

ここまでの用例観察では、アゲル系、クレル系については、授与者を主格で表示するパターンAとの対応が多く見られることが分かった。ならば、同様に、モラウ系については、受益者を主格で表示するパターンBとの対応が見られると言えるだろうか。

結論から言えば、モラウ系全体から見ると、スペイン語との対応に関しては、モラウ系に並行するパターンBよりも、アゲル、クレルと並行するパターンAとの対応のほうが際立っている。この点をめぐって、以下に具体的な例を挙げてみていくことにする。

まず、パターンBとの対応であるが、受益者を主格とする収受動詞recibirを主として、モラウとの対応が観察される。

(37) Cada niño recibió un puñado de almendras.

子供たちはそれぞれひとつかみのアーモンドをもらった. (bi2166)

(38) El niño alargó la mano para recibir la moneda.

その子は金をもらおうと手を伸ばした. (bi6225)

(39) Alfonso trabaja con comisión por las ventas y no recibe sueldo.

アルフォンソの仕事は売上歩合制で給料はもらっていない. (bi1268)

これらの用例の特徴は、モラウと対応するパターンをとっていても、その授与者がいずれも明示されていない点である。日本語のモラウでは、授与者の表示となる二格は動詞の必須項であるが、スペイン語のパターンB. では、上の例から分かるように、授与者はむしろ表示されない傾向がある。

(40) No olvides de pedir al vendedor la factura de la compra.

忘れずに店員から請求書をもらっておきなさい. (bi18217)

(41) Con un gran despliegue de astucia, Luis consiguió el permiso de sus padres para viajar.

ルイスは要領よく立ち回って両親から旅行の許可をもらった。 (bi2803)

上の(40)は語彙的意味としては、「店員に頼む」の意であり、同様に(41)は「両親の許可を得た」の意となり、授与者が主格や与格のような動詞の必須項で表示されているわけではない。

このように、recibir 以外の動詞においても、受益者が主格で表されていても、授与者が明示される例は少ない。それに対して、アゲル系やクレル系との顕著な対応が見られたパターンAについては以下のような例が挙げられる。

(42) ¿Cuándo te dieron el alta?

君はいつ退院の許可をもらったの? (bi3198)

(43) Le pagan un sueldo indecente.

彼は薄給をもらっている。 (bi14619)

(44) Me contestaron después de varias semanas.

私は数週間後に返事をもらった。 (bi16315)

上の例は、いずれもパターンAと対応しており、受益者が与格となり、授与者が主格で表示されている。ただし、この場合の授与者は無人称、つまり不定である点が特筆される。

### 3-3-2 ~テモラウとの対応

~テモラウにおいては、パターンBとして、受益者を主格で表示するタイプの用例は少ない。

(45) Rebeca recibió congratulaciones de sus amigas por su triunfo.

レベッカは友人たちから成功を祝ってもらった。 (bi20810)

(46) Sólo te pido comprensión.

ただ私はあなたに理解してもらいたいだけなのです。 (bi22080)

これらの例では、先の(40)-(41)と同様に、語彙的意味としては、「友人たちからの祝福を受けた」、「あなたに理解を求める」の意であり、主格や与格のような動詞の必須項では授与者が表示されていない。

一方で、授与者が主格となるパターンAについては、以下のような対応が見られる。

(47) Después de tomar el baño, me dieron un masaje.

私は入浴後マッサージをしてもらった。 (bi3942)

(48) ¿Qué médico te trata?

あなたはどの医者に診てもらっているの。 (bi20244)

上記(47)は与格による受益者表示、(48)は対格による受益者表示の例である。

(48)では動詞活用より、授与者が2人称単数であることが分かるが、(47)では、授与者

が3人称複数による無人称表示で、授与者を特定することはできない。

最後に、利益の与格について、モラウ系においても、アゲル系やクレル系でみられたような対応が観察される。

(49) Al jefe le gusta que le rían sus gracias.

上司は自分の冗談を笑ってもらいたがる。(bi975)

(50) Llevé el abrigo a la tintorería a que me lo tiñeran de azul oscuro.

私は紺に染めてもらうためにオーバーを染物屋に持って行った。(bi14835)

(51) No haría ese trabajo ni aunque me subieran el sueldo.

給料をあげてもらったって私はそんな仕事などするもんか。(bi17937)

これらの用例においても、授与者が無人称となっており、無人称による授与者表示とモラウ系がなじみやすいという傾向が指摘できる。

### 3-3-3 イタダク系との対応

最後に、モラウの敬意表現であるイタダク系との対応例を見ておく。

イタダクが物の授受を表す場合、モラウと同じく、パターンAのように授与者が主格で表される場合が大半であり、その場合の受益者は与格による表示となっている。

(52) Nos ofrecieron frutas muy varias.

私たちは実にさまざまな種類の果物をいただきました。(bi18696)

(53) ¿Me puede traer un vaso de agua? -- ¡Al instante!

水を1杯持ってきていただけますかーはい、ただいま。(bi16751)

(54) Desearía que me lo enviaran a mi casa.

それを私の家まで届けていただきたいと思います。(bi3812)

また、授与者が主格で表示された場合、受益者が対格で表示される場合もある。

(55) ¿Me ayudan a mover el coche?

車を移動するのを手伝っていただけますか？(bi16272)

上の(55)にも見られるように、～テイタダクとの対応について特徴的なのは、可能形(～テイタダケル)の形式をもって、依頼表現と対応する例が散見される点である。

この点について、山田(2004:259)では、可能(能力可能、状況可能)を表す形式が依頼表現として機能することは多くの言語に見られるとして、様々な言語における依頼の用例を挙げている。スペイン語もその例外ではなく、可能を表す動詞 poder を用いた依頼表現<sup>9)</sup>がある。

9) 動詞 poder は、依頼だけでなく、許可を求める際の表現としても機能する。

¿Puedo usar el teléfono? 電話をお借りしてもいいでしょうか? ↗

(56) ¿Puedes prestarme tus apuntes? -- Muy bien.

ノート貸してくれる?—いいよ。(bi19909)

(57) ¿Me puede decir su número de teléfono?

あなたのお電話番号を教えてくださいませんか?(bi16744)

これに対して、日本語の依頼表現では授受表現はどのように機能しているだろうか。

まず、モラウ系の可能形は、依頼表現としての用法を持つ。

(58) La lámpara está rota. ¿La puedes arreglar?

懐中電灯が壊れているんだけど直してもらえますか?(bi13051)

また、モラウ系の可能形を用いて、話し手が聞き手にある行為を促したり勧めたりする表現もある。

(59) Aquí tiene usted varios modelos para elegir.

ここにあるいろいろなモデルからご自由にお選びいただけます。(bi1771)

このように、～テモラウ、～テイタダクについては、授受表現本来の物のやりとりを表す用法にとどまらず、依頼などの働きかけを伴う機能表現への文法化が見られる。

#### 4. 日本語の授受表現から見たスペイン語との対応

3. では、スペイン語から見た日本語の授受表現との対応について、用例を挙げて概観してきた。それでは、逆に、日本語の授受表現はスペイン語においてどのように表現されているのだろうか。以下では、日本語からスペイン語への訳出における用例<sup>10)</sup>を通じて、スペイン語の表現との対応を見ていくことにする。

##### 4-1 アゲル系との対応

日本語のアゲル系がスペイン語に訳出された場合、先の3. で挙げたパターンAに相当する対応、すなわち、授与者が主格で、受益者が与格で表示されることが多い。この場合の与格は、授受される物の着点ともなっている。

↘ スペイン語における依頼表現としては願望を表す動詞quererを用いる表現も一般的である。

¿Quiere usted mostrarme esa camisa de rayas?

その縞のシャツを見せていただけますか?(bi20593)

Quisiera que me compulsaran estos documentos.

この書類の写しを取っていただきたいのですが。(bi20687)

10) 以下での用例出典は、次のとおり略記する。略号の後ろの数字は、ページ数を表す。

NP : N.P.      高 : 高瀬舟      羊 : 羊をめぐる冒険

(60) 咲にもコピーあげるの? (NP96)

¿Piensas darle también una copia a Saki?

(61) 餌もやらなくちゃならんし, (羊下103)

También hay que darles de comer,

また, 利益の与格による受益者表示との対応も見られる。

(62) 家まで運んであげるよ (羊上33)

Te las llevaré a tu casa.

(63) 銀行の貸金庫に入れといてやるよ (羊下228)

Te lo guardaré en mi caja de seguridad del banco

(64) 羊の紋章入りのデュポンのライターで火をつけてやった。(羊下98)

~ se lo encendí con el encendedor Dupont que llevaba grabado el emblema del carnero.

上の(62)では, 「運ぶ」の行為対象は対格 las であり, その着点は, “a tu casa” (きみの家へ) であることから, 与格で表示されている te はその着点とはならない。(63), (64)についても同様に, 行為対象が対格で表示されているが, 与格はその着点ではなく, 受益者となっている。

さらに, ~テアゲルに待遇性を加えた~テヤルについても, 与格や対格による受益者表示と見られる用例がある。

(65) ということならいいぜ, 行こう, 紹介してやるぜ (NP6)

¿Eso eso lo que te preocupa?---Vamos, te los presento

(66) 毛布をかけてやった。(NP60)

Lo cubrí con una manta.

ただし, ~テヤルの訳出において, 物のやりとりの着点や行為の対象を表示するような要素が見られない場合もある。

(67) よし, 缶の飲み物を買ってやるから, 道で飲もう。(NP124)

Voy a comprar unas latas y nos las tomaremos en la calle.

(68) 其心持はこっちから察して遣ることが出来る。(高13)

Podía imaginarse perfectamente ese sentimiento.

このような用例は, 水谷(2001)が指摘したように, 日本語の授受表現が訳出されない場合に相当するものとみられる。

#### 4-2 クレル系との対応

先に、3. ではスペイン語との対応において、アゲル系とクレル系が似通った傾向を示すことを明らかにした。一方、日本語の授受表現からの訳出においても、その表示の傾向は類似しており、与格を用いた受益者（かつ着点）の表示となっている点、また、～テクレルや～テクダサルにおいて、与格や対格によって受益者が表示されている点、さらに利益の与格との対応が見られる点も同様である。以下にまとめてその用例を挙げる。

<与格との対応>

(69) コーヒーだけくれよ。 (NP101)

Dame sólo café.

(70) 昔、鼠がそれについて何度か僕に話してくれた。 (羊下107)

El Ratón me había hablado de ella más de una vez.

<対格との対応>

(71) でも、あなたならわかってくれるような気がするんです。 (NP195)

Pero tengo la sensación de que tú me entenderás.

(72) 羊男がガレージのわきに埋めてくれた。 (羊下197)

El hombre carnero me enterró junto al garaje.

<利益の与格との対応>

(73) 僕の唇に煙草をはさんで火をつけてくれた。 (羊下137)

me colocó un cigarrillo entre los labios, y me lo encendió.

(74) 羊博士は牧場の細かい地図を描いてくれた。 (羊下64)

El profesor Ovino nos dibujó un plano detallado de la situación de la finca.

#### 4-3 モラウ系との対応

先に、アゲル系やクレル系とは異なり、モラウ系はスペイン語との対応において非対称的な対応をみせることを指摘した。それでは、モラウ系は、スペイン語へはどのように訳出されて表現されるのであろうか。

モラウ系についても、上述の3. での観察に見られたように、与格による受益者表示との対応が多い。つまり、モラウ系の訳出において、モラウ系と並行的なパターンBは用いられにくく、アゲル系やクレル系と同様に、授与者が主格で、受益者が与格で表示されるパターンAによる訳出のほうが多用される。

以下にイタダクの用例と合わせて用例を示す。

<与格との対応>



(75) いくらかはもらえるが、締め切りがあり、まるで夏休みの宿題のようだった。

(NP51)

Me pagaban la ayuda, pero siempre tenía plazos ajustados, lo que hacía que me parecieran deberes de vacaciones de verano.

(76) 何年前に先生に教えていただいたんです(羊上200)

Me lo dijo el jefe hace unos años.

<対格との対応>

(77) 初めにおろしてもらうはずだった交差点で別れた。(NP82)

Nos despedimos en el cruce donde tendría que haberme dejado al principio.

(78) 信じてもらえるとは思わなかったし、話としても長すぎたからだ。(羊上229)

No me creería, y, como tema de conversación, resultaría excesivamente largo. ただし、受益者が主格となる例もわずかながら見られる。

(79) それにお牢を出る時に、此二百文を戴きましたのでございます。(高7)

Y ahora, al salir de la cárcel, recibí estos doscientos mon.

(80) ところでチーズ・サンドウィッチをもらっていいかな?(羊下186)

A propósito, ¿puedo llevarme un bocadillo de queso?

(79)は収受動詞recibirを用いたパターンBの典型例である。しかし、(80)は、再帰動詞llevarseを用いた表現であり、先の(3)の再帰動詞quedarseと同様に、方向性を伴っていない。よって、これはパターンBとの対応とはとらえられない。

## 5. 考 察

以上、日本語の授受表現をめぐって、スペイン語から日本語へ、また、日本語からスペイン語への訳出における表現形式の対応を用例に沿って観察してきた。そこから日本語の授受表現に関して、スペイン語との対応における一定の傾向が見られた。以下では、それらをまとめながら、考察を加えることとする。

最初に、スペイン語からの訳出に日本語の授受表現が用いられた場合については、日本語のアゲル、クレル、モラウのいずれに対しても場合にも、受益者を与格で表示するパターンとの対応が最も多く見られることが分かった。さらに、補助動詞としての用法についても、受益者が与格で表示されるパターンとの対応が目立つ。

こうした全般的な傾向とは別に、アゲル系、クレル系、モラウ系のそれぞれに特徴的な傾向も見られた。

まず、アゲル系について、受益者が与格で表示されている例の中に次の用例があった。

(81) (= (12)) *Esa falda te queda preciosa, Carmen. Vuélvete para que te la vea por detrás.*

そのスカートはとてもよく似合うわ、カルメン。後ろを見てあげるからぐるっと回って。(bi9031)

(82) (= (13)) *Yo te sujeto la escalera. Baja sin temor.*

私がはしごを押さえてあげる。怖がらずに降りてきて。(bi24292)

これらの用例において、スペイン語では受益者がそれぞれ2人称単数の与格 te で表示されているが、これに対応する日本語訳では受益者は形式としては明示されていない。そこで、teに相当する語句を補うとすれば、どうなるだろうか。

(81') 私が \*きみに/?きみのために 後ろを見てあげる。

(82') 私が \*きみに/?きみのために はしごを押さえてあげる。

上の語句補充から分かるように、日本語においては、受益者が二格では表示できない場合があるが、こうした場合も含めて、スペイン語では受益者を一律に与格で示すことができる。言い換えれば、日本語では授受動詞（ここではアゲル）が担っている恩恵性の表示を、スペイン語では与格が担うことができる。そのため、このような対応について、日本語訳において授受表現が付加されているととらえるのは適切ではない。むしろ、これは、益岡(2001)のいう「好ましさの言語化」に用いる形式が、言語間で異なっていることを示すものであろう。

次に、クレル系について、スペイン語と日本語の表現の対応傾向は、アゲル系とほぼ同様であり、受益者が与格で、また授与者が主格で表示されるパターンが多用されていることが分かった。

しかし、授与者が主格となっている構文において、以下のように、アゲルよりもクレルによる訳出とのなじみが選好されるものがある。

(83) (= (27)) *El hombre generoso perdona fácilmente.*

寛大な人はすぐに許してくれる。(bi5818)

(84) (= (28)) *El tiempo borrará los malos recuerdos.*

時がいやな思い出を消してくれるだろう。(bi7295)

(85) (= (29)) *Esta lluvia sentará el polvo.*

この雨はほこりを落ち着かせてくれるだろう。(bi9534)

(86) (= (30)) *Las flores alegran la vista.*

花は目を楽しませてくれる。(bi14169)

これらの用例について、クレルとアゲルの可換を検証してみるとどうなるだろうか。

(83') ? 寛大な人はすぐに許してあげる。

(84') ? 時がいやな思い出を消してあげるだろう。

(85') ? この雨はほこりを落ちて着かせてあげるだろう。

(86') ? 花は目を楽しませてあげる。

上でクレルとアゲルを入れ替えた用例のうち、容認度に多少の差異はあるものの、いずれも容認度はかなり落ちると見られるが、それはなぜだろうか。

これらの全ての用例について、スペイン語においては受益者の表示が見られない。類例を作成するならば、次のようなものが挙げられる。

(87) 鎮痛剤は、様々な痛みを和らげてくれる / ? 和らげてあげる。

(88) このソフトウェアは英語のスペルの間違いを直してくれる / ? 直してあげる。

授受動詞としてのアゲルとクレルの相違点の一つは、受益者の人称である。クレルは1人称(またはそれに準ずるメンバー)のみを受益者として共起させることができる。このことと受益者が明示されていないこととはどのように関連付けられるだろうか。上掲の例では、動詞の意味内容から話者を含む(「私たち」、「我々」のような)一般的な受益者が想定されていると考えられる。このため、形式として明示されない一般的な受益者を想定したような用例については、～テアゲル構文よりも、1人称の話者を含む受益者の想定を許容する～テクレル構文のほうが対応しやすいと考えられる。

一方、アゲルについては、構文として受益者に1人称を共起させることができない。クレルの場合は、受益者が形式として明示されていなくとも、1人称の話者を含む一般的な受益者を想定して補うことが可能であるが、アゲルについてはそのような一般的な受益者の補充が不可能になる。～テアゲル構文との対応におけるすわりの悪さはこの点に求められる。さらに、クレル系が話者寄りの視点を伴うのに対して、アゲル系は話者以外に向けた視点を伴う。そこから、アゲル系を用いた表現には、他者への方向性、またはその着点を要求することになる。この方向性の行く先は、～テアゲル構文における行為の対象者となる。この点において、上記の例では、受益者として想定される行為の対象者が表示されておらず、～テアゲル構文との齟齬をきたすと考えられる。したがって、このようなスペイン語に対する日本語の表現としては、授与者を主格で表すもう一つの構文である～テクレル構文が対応しやすいのではないだろうか。

さらに、モラウ系に見られた傾向としては、日本語のモラウ構文と並行的な構文パターンよりも、むしろ、アゲル系、クレル系と同様に、授与者を主格で、受益者を与格で表示するパターンとの対応が選好されていることが分かった。ただし、この点に加えて、モラ

ウ系について特筆できるのは、授与者が3人称複数形の主格による無人称で表示されている例が散見されることである。

(89) (= (42)) ¿Cuándo te dieron el alta?

君はいつ退院の許可をもらったの? (bi3198)

(90) (= (43)) Le pagan un sueldo indecente.

彼は薄給をもらっている. (bi14619)

(91) (= (44)) Me contestaron después de varias semanas.

私は数週間後に返事をもらった. (bi16315)

このように、スペイン語において授与者が無人称である場合、モラウによる対応が見られるが、その一方で下の入れ替え例から分かるように、アゲルやクレルによる対応は容認度が下がるか、もしくは別の意味を表す文となってしまう<sup>11)</sup>。

(89') 君にいつ退院の許可をあげたの? / くれたの?

(90') 彼に薄給をあげている / かけている。

上のように、モラウとアゲル、クレルとの可換度を見た場合には、主語が受益者から授与者へと入れ替わる。しかし、元の文では、授与者は無人称表示であったことからその特定はできず、したがって、主語が明示できないことになる。

～テアゲル構文には1人称以外の行為の対象者が想定されることは先に述べたが、アゲル構文については、それと同様に、物のやり取りに関して1人称以外の着点が想定されると言える。上の例では、授受の着点は表示されているが、授与者である主語は明示されておらず、何らかの想定や補充が必要である。しかし、アゲル構文においては主語として1人称を想定することは構文として不可能である。とすれば(先の～テクレル構文において想定したような)「話者を含んだ一般的な話者」のような想定、いわば、形式として明示が必須ではないような想定をすることはできない。したがって、形式として明示されるような具体的な着点の想定が必要になるが、想定のための情報は明示的には与えられていない。この点が～テアゲル構文との対応を妨げているのではないだろうか。

最後に、日本語の授受表現からスペイン語への対応を概観したが、その結果、スペイン語から日本語への対応を裏付けるような傾向が明らかになった。

先行研究では、水谷(2001)において、日本語と英語相互の訳出に際して、授受表現に相当する要素の加除が指摘されていたが、これと同様の例が今回のコーパスでも観察された。

11) ただし、(91)のように、受益者が1人称の場合は、クレルとの入れ替えが可能である。

(91') 私に数週間後に返事をくれた。

(92) (= (22)) Mi marido me ayuda a cocinar algunas veces.

私の夫はときどき料理の手伝いをしてくれる. (bi17184)

(93) (= (23)) Cuando era niño mi tía Sofía me llevaba al circo.

私が子供のころソフィアおばさんは私をサーカスに連れて行ってくれた. (bi3119)

これらは「手伝いをする」「連れて行く」という行為が、「私」を対象として行われた場合、日本語では恩恵の表示に相当する行為であるととらえられた結果、～テクレルが付加された訳出となっていると考えられる。

一方、それと対照的な例もある。

(94) 彼女は猫の耳のうしろを何度かかいてやった。(羊上31)

Ella se puso a hacerle cosquillas detrás de la orejas.

(95) 彼女はそう言って、もう一度猫の頭をかいた。(羊上34)

Mientras hablaba, volvió a hacerle cosquillas al gato en la cabeza.

原文の日本語では、「かいてやった」「かいた」のように、明らかな表現の差がある。しかし、上記の波線部“hacer cosquillas”は、「(かゆいところを) 掻く」という意味であるが、スペイン語訳だけを見る限りでは、ほぼ同じ訳となっており、恩恵性の程度差を読み取ることができない。逆に言えば、上記のスペイン語を日本語に訳した場合、もともとあった授受表現の使用の有無が復元できないとも言える。

このような授受表現のいわば「非用」については、今回は現象の指摘にとどまっているが、どのような場合に授受表現が訳出されたりされなかったりするかについて、さらに詳細な検討が必要である。

## 6. まとめ

以上、日本語の授受表現であるアゲル、クレル、モラウについて、それぞれと対応するスペイン語の表現を用例を挙げながら考察してきた。

先に、上田(2001)において、日本語の授与補助動詞とスペイン語の与格接語との対応が指摘されていたが、今回の考察を通して、收受動詞モラウを含めた授受表現全般とスペイン語の与格接語の対応が認められることが明らかになった。

ただし、対応する表現は与格だけではなく、対格による受益者表示などとの対応も見られた。

アゲル系、クレル系、モラウ系とスペイン語との対応を見る際に、パターンA～Cと称する分類を使用した。この分類において、パターンAを授与者が主格で表示され、また、

パターンBを受益者が主格で表示されるものと設定した。この設定に従えば、アゲル系、クレル系と並行的に対応するのはパターンAとなり、モラウ系とはパターンBが並行的な対応をなすとも仮定できる。しかし、用例を通じた検証では、アゲル系、クレル系、モラウ系のいずれもパターンAとの対応への偏りが見られた。アゲル系とクレル系については、授与者と受益者がそれぞれ主格と与格で表されやすいという点で、日本語と並行的に対応している。しかし、モラウ系については、受益者が主格で表されるという日本語と並行的なパターンのほうが用例数が少なく、むしろ、アゲルやクレルと同様に授与者が主格で表されるパターンと対応する傾向が強い。したがって、授受表現全体としてみると、非対称的な対応となっていると言えるだろう。

このような非対称性があるものの、スペイン語にもパターンBに相当する構文が存在する。受益者を主格で表示するタイプの動詞としては、recibir（受け取る）、conseguir（手に入れる）pedir（頼む。その結果、受け取る）のような動詞が挙げられるが、日本語のモラウ系との強い対応関係は見られなかった。そこから、そもそも、スペイン語で受益者主語をとる動詞構文の使用場面や使用傾向はどのようなものかという疑問が生じる。この点については、より詳細な考察が必要である。

また、アゲル系、クレル系、モラウ系のそれぞれについて、スペイン語の同一の構文パターンに対して、アゲル・クレル・モラウ相互の入れ替えの容認度に差が見られる場合があった。これらは、アゲル・クレル・モラウをめぐる人称制限にも関わる問題であり、上にまとめたようなスペイン語の表現との画一的な対応だけではとらえきれない側面である。

日本語の授受表現は、日本語学習の観点から見ると、一般にその習得が困難であるとされるが、上に挙げたような言語間の対応における非対称性にもその困難さの一因があると考えられる。そうした点をふまえ、スペイン語母語話者を対象とした授受表現の指導や習得に対しては、どのような示唆が提供できるであろうか。

初級レベルの日本語教材では、初級文型として授受表現のアゲル・クレル・モラウを扱う際に、アゲル・モラウの対立を先にまとめて扱い、その後でクレルを提示する場合がある<sup>12)</sup>。これは、山田(2004)に指摘されているように、日本語の授受表現がクレルを含んだ三項対立をなしていることの特異性を反映したものととも考えられるが、スペイン語表現との対応を見る限りは、アゲル・クレルは、与格の人称による違いを除けば、授与者と受益者の表示パターンはよく似ている。むしろ、スペイン語とは非対称的な対応をなす点で、

12) 『みんなの日本語 I』では、第7課でアゲルとモラウ、第24課でクレルが提示される。

モラウのほうがアゲルやクレルと異なるタイプととらえられる。こうした点をふまえた上で、特にスペイン語話者を対象とした母語別教材では、アゲル、クレル、モラウの提示順やそれぞれの用法説明に再考の余地がある。

さらに、授受表現の習得に関して、荒巻(2003)では、日本語学習者の授受動詞の非使用に関する調査を行っている。その結果、授受動詞を使用するかどうかについて、本動詞の動詞項パターン(が、に、を)との関連が示唆されている。そこからは、たとえば、受益者が与格表示をとらないタイプは授受動詞の非使用を起しやすいという仮説の可能性も考えられる。このような授受表現の習得と構文パターンとの関連に関する問題についても、今後も考察を続けていきたい。

## 参考文献

- 荒巻朋子(2003)「授受文形成能力と場面判断能力の関係—質問紙調査による授受表現の誤用分析から—」『日本語教育』117号. 43-52
- 上田博人(2000)「日本語の授与補助動詞とスペイン語の与格接語」『日本語とスペイン語(3)』123-185. くろしお出版
- 大江三郎(1975)『日英語の比較研究—主観性をめぐって』南雲堂
- 田中真理(2005)「学習者の習得を考慮した日本語教育文法」『コミュニケーションのための日本語教育文法』63-82. くろしお出版
- 長谷川哲子(2006)「「もらう」に関する日本語とスペイン語の対照」『大阪産業大学論集人文科学編』118号. 45-57.
- 益岡隆志(2001)「日本語における授受動詞と恩恵性」『月刊言語』30巻5号. 26-32.
- 水谷信子(2001)「第2章 補助動詞から見た日英の対照」『続日英比較話しことばの文法』47-72. くろしお出版
- YAMADA, Toshihiro(1996) Some universal features of benefactive constructions. 『大阪大学日本学報』15.27-45.
- 山田敏弘(2004)『日本語のベネファクティブ「てやる」「てくれる」「てもらう」の文法』明治書院

## 言語資料

『N.P.』吉本ばなな 角川文庫 1992

N.P. Trad. Matsuura, Junichi y Porta, Loudres. Tusquets Editores: Barcelona. 1994.

「高瀬舟」森鷗外 青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp>) 所収

*El barco de rio Takase*. Trad. Gallego Andrada, Elena. 現代企画室/Luna Books. 2000

『羊をめぐる冒険』(上)(下) 村上春樹 講談社文庫 1985

*La caza del carnero salvaje*. Trad. Fernando Rodriguez-Izquierdo y Gavala. Anagrama. 1992

『二言語コーパス』 <http://gamp.c.u-tokyo.ac.jp/~ueda/kenkyu/index.php>